

顧客本位の業務運営に関する取り組み状況

2023年6月20日現在

ロベコ・ジャパン株式会社は「お客様本位の業務運営に関する方針」に基づき、同方針に基づく取り組みを実施しております。

現時点での具体的な取り組み状況は以下の通りです。

【お客様本位の業務運営】

・「お客様本位の業務運営」がなされているかにつき原則年に1回の見直しを行い、実施状況について公表いたします。

⇒ここに実施

【お客様の最善の利益の追求】

・投資目的、運用目標に関するお客様との合意に基づいて運用目標が達成されているかどうかを定期的にモニターします。

⇒月次の投資運用会議において、運用部門の担当者と営業部門の責任者が、お客様の運用財産の運用状況をモニターし、運用目標に達しているか、運用目的に合致しているか等、様々な議論と検証を行っています。

⇒運用部門、営業部門が週1回の会議において、運用情報、顧客情報を共有することにより、お客様の要望への対応と運用面の対応を迅速に協議できる体制を整えています。

・環境・社会・ガバナンス(ESG)基準を大多数の運用に統合しています。

⇒1990年代からサステナビリティ統合に取り組んでまいりました。ロベコは運用戦略にESGの構成要素を盛り込んで提供しており、ESGを統合した運用資産総額は、2023年3月現在、1,760億ユーロ(約25,449兆円:1ユーロ=144,59563円で換算)に達しています。

・2020年12月に2050年までに投資における二酸化炭素排出量ゼロを宣言しました(ネットゼロ・アセットマネジャーズ・イニシアティブ)。

・EU のサステナブル・ファイナンス規則(SFDR)の下でロベコのほぼすべてのファンド(95%)がサステナビリティ特性に適合するファンドとして分類されました。

・昨年、ロベコが保有するサステナブル投資の知的財産をお客様や学術界に公開するプラットフォーム「サステナブル投資(SI)オープンアクセス・イニシアティブ」を始動しました。同イニシアティブを通じて、ロベコは既に国連の持続可能な開発目標(SDGs)に対する企業の貢献度を測定するロベコ独自のスコアへのアクセスをステークホルダーに対して無料で提供しています。同プロジェクトの第2段階として、その対象をカントリー・サステナビリティ・ランキング(CSR)へと拡大しました。

・2023年3月、シェアアクション(ShareAction、英国を拠点とする調査機関)が世界の資産運用会社77社を対象に行った調査*において、ロベコは2回連続で評価第1位を獲得し、AA評価を獲得した唯一の資産運用会社となりました。

*サステナビリティ関連の主要5項目(ガバナンス、スチュワードシップ、気候、生物多様性、社会)への取り組みに関する100以上の質問に対する調査対象企業からの回答をもとに、シェアアクションが評価を行ったもの。

・議決権行使及びエンゲージメント

⇒ロベコの質の高いアプローチは、国連責任投資原則(UNPRI)の2021年の評価における「投資とスチュワードシップ」の項目で100%の評価を獲得しています。

⇒ロベコは企業行動への影響を行使することを目指し、200社もの企業との積極的対話を続け、また約7,000件以上もの株主総会で議決権を行使することにより真の意味での変化へと導いています。

[重要な情報のわかりやすい提供・手数料の明確化]

・提供する運用商品・サービスに関する情報(投資戦略、投資方針、リスク、リターン、お客様の負担する手数料など)について、提供する商品・サービスやお客様の属性に応じて、適切でわかりやすい説明を心がけます。

⇒当社のお客様は年金基金、学校法人、金融機関等の適格機関投資家に限定されるため、直接のヒアリングを通じて、お客様のニーズや金融知識、投資経験をしっかりと把握し、顧客管理シートに基づいて、各お客様に応じた説明や資料の提供を行っています。お客様の負担する手数料やリスクなどの重要な情報についても、適用される法令等に則り、わかりやすく伝える工夫をしています。

・勧誘資料、情報提供資料の見直しを行い、商品の特性や仕組み等のわかりやすい提供を心がけます。

⇒より分かりやすい表現を用い、データやグラフ、図表も、本邦のお客様のニーズに合致するように工夫しています。海外グループ会社の作成した資料は原則全て和訳・調整を施しますが、お客様の属性やご希望に応じて、スピードを重視し、英文のまま提供することもあります。

[お客様にふさわしいサービスの提供]

・お客様に市場やロベコの金融商品に対する情報を提供するように努めます。

⇒お客様の資産運用に役立つための情報提供のために、当社グループの運用プロフェッショナルが執筆した時宜を得たレポート等のコンテンツを、随時当社ウェブサイトに掲載します。特に本邦のお客様の関心が高く、有益と思われるテーマのレポートについては、迅速に和訳版を掲載しています。2022年6月16日～2023年6月15日では26本の和訳記事が掲載されました。

⇒同様に、オルイン Web にも 2022年6月16日～2023年6月15日に24本のレポート等を投稿しました。

⇒上記は配信メールにより、個別のお客様にもタイムリーにお届けします。2022年6月16日～2023年6月15日では35本配信しました。

⇒特に欧州系でESG関連に実績があることから ESG 関連の情報や商品については、コンテンツの充実を図っております。2023年にはウェブサイトを全面的に刷新し、特に ESG 関連の情報を拡充しました。

⇒ロベコのグループ会社の主催するオンラインセミナー等を通じて積極的に情報提供を行います。

⇒ロベコのグループ会社によるグローバル・セールス・ミーティングに営業担当者が参加し、随時ロベコの運用商品についての研修を受け、知識と理解を深めています。

⇒グループ会社がマザーファンドを運用する国内で販売されている投資信託について、またグループ会社が国内委託会社より委託されて運用する戦略について、販売会社に対して、また、国内委託会社に対して、より商品の理解を深めてもらうための情報発信を活発に行っています。(実施実績)

2021 年	国内委託会社向 商品勉強会 (3 回)
	販売会社向支店勉強会(30 回 うち動画撮影 4 回) 個別支店毎含む 2021 年 1-6 月実績
2022 年	販売会社向勉強会(5 回 うち動画撮影 5 回) 2021 年 7 月-2022 年 6 月実績
2023 年	販売会社向勉強会(9 回 うち動画撮影 3 回) 大学生 ESG 勉強会 1 回 2021 年 7 月-2023 年 6 月実績

[利益相反の適切な管理]

・利益相反の適切な管理のために従業員の「利益相反管理」に対する理解を深めます。

⇒2018 年からはグループ共通の Code of Conduct への年次サインオフを全従業員から取得し、理解と再確認の機会を設けています。グループの Conflict of Interest Policy は適宜更新を行っており、従業員への研修も行っています。

[従業員に対する適切な動機づけの枠組み等]

・従業員の当社ビジネスに従事する動機付けをより強くするため、適宜、就業規則等の見直しを行います。

⇒2018 年第 3 四半期にフレックスタイム制の導入し、より良い環境や働き方の実現に向け取り組んでおります。コロナ禍においてはフレキシブルな勤務体制を推進し、従業員の在宅勤務支援を行いました。現在は状況を見ながら柔軟な勤務体制を継続しています。

・適宜、従業員向けの研修・教育を行い、知識と理解の向上を図っています。

⇒随時、従業員研修を行い、本原則を含め当局の考え方や動向を、投資顧問業協会の研修資料等を用いながら、全従業員に伝えています。また、重要かつ時宜にかなったテーマを選び、全従業員に向け、毎年研修を行っています(2022 年春には営業担当者向けに SESC の今後の検査動向等についての研修、2023 年 2 月には Code of Conduct 及び Conflict of Interest についてフォローアップ研修を行いました)。常時、ロベコのグループ会社によるグローバル・セールス・ミーティングに営業担当者が参加し、随時ロベコの運用商品についての研修を受け、最新の知識と理解を深めています。また、欧州の

規制動向についても、営業、営業サポート向けに適宜オンライン研修を実施し、知識と理解の向上に努めています。

・従業員の業務を支援・検証する体制をとっています。

⇒従業員に対し、年次で外部機関によるカルチャー・サーベイ(調査)を実施し、定期的にそのフィードバックも含めてHRが従業員と個別面談を行う等、従業員の働き方の実態の把握や改善に役立てています。